



医科診療所で診療する工藤正一郎所長。診療と合わせ、これ以上病気にならないようにと予防も勧めています

村の高齢化率は 16年度で27・3%

高齢化率は65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合をいい、国連は高齢化率が7%を超えた集団を高齡化社会と呼んでいます。

左のグラフ1をご覧ください。村の高齢者の人口は総人口が減っているにもかかわらず、平成12年度から増え続け、平成16年度の村の高齢者人口は924人と、平成12年の842人に比べ82人増えています。

高齢化率も当然上がり、平成12年度の23・7%から3・

6%増え、平成16年度で27・3%となっています(グラフ2)。

国と同様、村でも高齢化は進んでいます。

老人医療費は 一人当たり約43万円

老人医療費は国民が公平に負担するという基本理念から、皆さんが病院の窓口で支払う一部負担金のほかに、各医療保険の加入者が納める保険料や保険料などからの拠出金、国や県、村からの負担など、いろいろな人たちの協力によって賄われています。

平成16年度の村の老人医療

受給者は553人で、老人医療費(老人保健特別会計決算)は2億7338万3千円でした(グラフ3)。

一人当たりの医療費をみると約43万1千円、平成15年度に比較すると約7・7%減っています(グラフ4)。

しかし、これは制度改正により対象年齢が70歳から75歳に引き上げられ、受給者数が減少しているためです。

では、なぜ老人医療費が問題になるかというと、それは老人医療費が若い世代にかかる医療費よりずっと高いからです。

これは、高齢者に生活習慣

病と呼ばれる、高血圧症、心臓病、糖尿病などが多く、療養期間が長くなるからです。したがって、医療費が増えれば増えるほど、皆さん自身の負担となって跳ね返ってきます。強いては村の財政にも影響してきます。

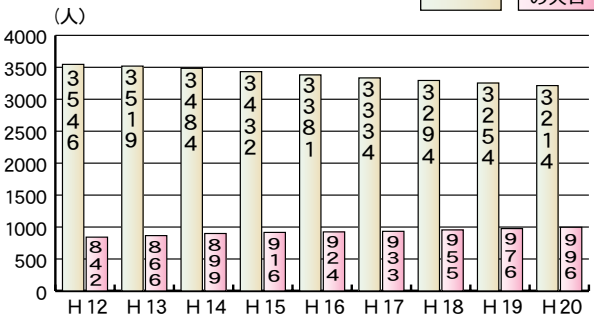
上手な受診で 医療費の節約を

病気になったとき医療機関に通うことは当然のことです。しかし、病気が長引くと心配になり、医療機関を変えたりすると、また最初から同じような検査が繰り返され、医療費が膨らんでいきます。

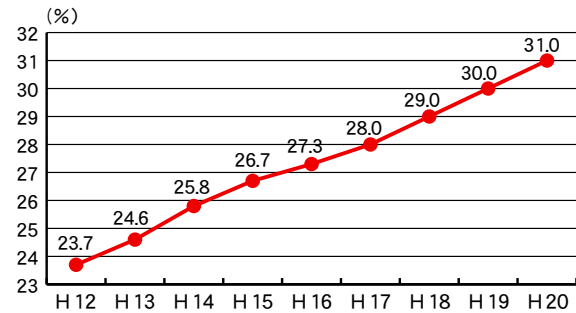
これは高齢者に限ったことではなく、若い世代にもいえることです。これからはみんなで正しい生活習慣を身に付け病気を予防することで、医療費の節約にもつながってきます。

健康な毎日を送るため、①かかりつけ医を持つ②治療より予防を心掛ける③栄養・運動・休養の「健康三原則」を守る④同じ病気でいくつも違う病院にかかるのはやめる⑤健康診断を積極的に受ける——を心掛け、高齢者も高齢者以外の若い世代も、病気を予防に努めることが大切です。

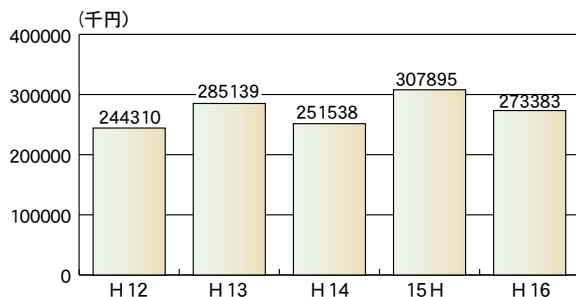
■グラフ1 高齢者人口の推移



■グラフ2 高齢化率の推移



■グラフ3 老人医療費の推移



■グラフ4 1人当たりの老人医療費の推移

